

# 「地域の足」を確保せよ 完結編

特集

輪・和・話  
知恵の 人の マチの

## その6 公共交通のこれからは



車両を覗き込むと、乗客は7人程度、石狩金沢以北の鉄路は・・・

秋の中小屋駅

### 公共交通転機の年！

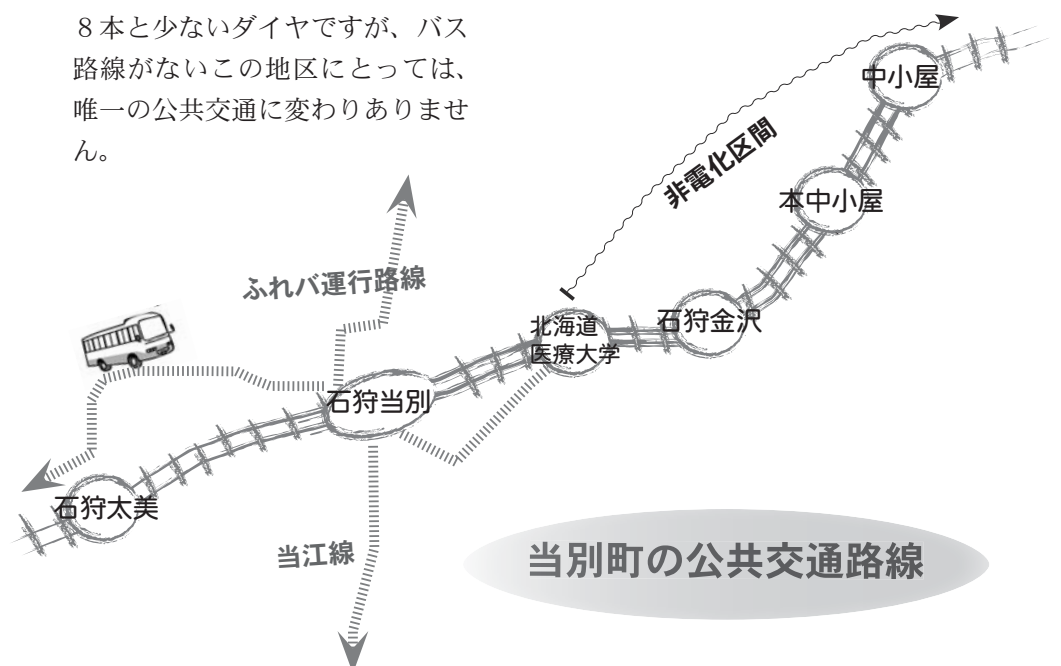
6回にわたって地域の交通を考える特集を連載してきました。車の普及と、少子高齢化による人口が減少する状況で、公共交通機関に求められているもの、そして実際の運行はこれまでも大きく変化してきました。

今年からは、ふれあいバスが本格運行に移行し、来年6月からは、JRの電化が始まるなど、今まさに転換期であると同時に多くの課題を抱えています。ふれバの運行は、官民あげての路線統合で誕生しました。環境に配慮したイメージを打ち出し、様々な経費を削減する工夫を進めていますが、路線を確保できない区域もあり、運行本数や、JRとバスの接続に不満を感じる住民も依然多いのです。また、JRの電化では、町内にある、石狩太美、石狩当別、北海道医療大学、石狩金沢、本中小屋、中小屋の6駅のうち、北海道医療

大学から中小屋以北への区間は非電化のまま、これまでのディーゼル車両での運行となります。

11月のある日、3つの駅を巡ってみました。平日の午後2時台の列車には7、8人が乗車し、本中小屋駅では自転車5台が駐輪していました。1日に上り7本、下り8本と少ないダイヤですが、バス路線がないこの地区にとっては、唯一の公共交通に変わりありません。

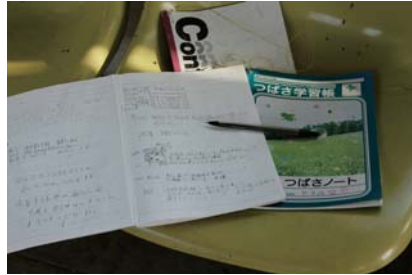
公共交通機関は、効率よく安価で安全な輸送機関です。こども、お年寄りも含めて移動手段に選択肢があるということは重要で、その運行自体が無くしてはならない地域の重要な財産なのです。



当別町の公共交通路線

## 北海道医療大学～中小屋駅⇒ ここも学園都市線

石狩金沢以北の三つの駅は、昭和10年建築の駅舎が老朽化し、現在は旧車掌車を改造した待合室が設置されている。トイレもないが、利用する付近の住民が自主的に清掃をしているほか、自由ノートが置かれ、訪問者の感想が綴られている。



JRではワンマン運行の区間での、乗降数の詳細データは公表していないという。



石狩金沢駅の開設当初は複線で、ピートモスや泥炭、農協の肥料や貨物の取扱いも多かった。駅の職員が家族総出で季節の花を植えるなど、「花いっぱい優良駅」として2度表彰されたこともある。



北海道医療大学以北の運行は、ディーゼル気動車1両によるワンマン運転。3駅ともに無人駅のため、運転席のある前のドアから乗降し、運転手兼車掌に料金を支払います。

## みんなの足を守るには

公共交通機関は、都市部では利用者の増加とサービスの向上に努めながら、安定した収支バランスを確保してきましたが反面、過疎地では利用者の確保は難しく、利用者の減と減便といった悪循環が、より過疎化に拍車をかけているとも考えられます。

利用者以外にも、JR学園都市線の運行には、月形町、浦臼町、新十津川町の沿線自治体の動向も関係してきます。

地域の足を確保するには、利用者の心をつかむサービスの向上、

ロスの少ない効率的な運行などが運行事業者に求められますが、同時に行政でも、今後、鍵となる環境施策や健康づくり、高齢者などの福祉施策と絡めながら内容の充実と、利用率を高める方策が試みられています。

そして最も大切なことは、地域の一人ひとりが、バスなどの公共交通の存在を認識し、出来るだけ利用するなど企業、行政と地域住民がそれぞれの役割を果たしていくことなのです。

